

浜嶋です。

おはようございます。

昨日11月27日に大阪連盟の平成28年度安全フォーラムが開催され、藤丸副団委員長、吉田団委員長及びBVS隊白崎隊長とVS隊吉田隊長と私が参加しました。3つの講演テーマ

がありましたが、「青少年活動における危機管理」について報告し、先週報告した2団の安全活動のための安全対策についての評価と今後の改善について説明します。

2つに分けて送ります。

1. 危機及び危機管理についての説明

私たちは、自然災害や情報セキュリティなど多くの危機に取り囲まれて活動を行っています。しかし、ボーイスカウトでは危機管理があまり行われていなく、危機に対応できなかった事例が発生しています。事故が発生したときの対応が薄い場合は、対応方法を誤るととんでもない事態に発展してしまいます。危機管理は必要という認識を持たないといけません。

今回2団は、安全活動のための安全対策マニュアルを整備し、危機管理の体制をスタートさせることにしました。これは、社会及び団内さらに大阪連盟、日本連盟から求められているものです。しかし、危機管理は、2団の活動、私たちを守るためのものであり、私たちが自主的に考えて、事故に備えることが重要です。

2. リスクマネジメントと危機管理

リスクマネジメントは、「これから起きる可能性のある危機に関し、その発生可能性や影響を好ましい方向へ誘導・コントロールするための活動」です。

また、危機管理は、「起きてしまった事故や事件に対して、そこから受けるダメージ・悪影響を最小限にするための活動」です。

事故の対応は、普段の活動体制では対応できない特別の行動になります。危機管理は、この対応を取りきめて、いつ事故が起きてもそれに対応できる訓練が必要です。これも2団では、事故対応体制表を作成し、事故対応訓練を実施しています。しかし、ありきたり、通り一遍の訓練では不十分であることを認識してください。各隊により活動形態は異なります。また各隊の中でも様々な活動を行っている中で、どのような活動状況の事故が発生するかはわかりません。一通りの状況設定の体制表あるいは訓練では不十分であることは明確です。継続して事故に備える努力が必要です。

3. 私たちの日常活動と関連させて、レベルアップを図りましょう

危機管理は、2団で行うことが必要です。指導者だけでなく、スカウトや保護者も関心

を持って取り組む必要があります。スカウトや指導者は、活動の中で救急章、消防章を学んでいます。スカウトや指導者は、事故が起きたら救急車を手配することができます。また、心肺蘇生救急法を実行できます。すでに身に着いた対応方法が活用できます。またこれからもスカウトがチャレンジしていきます。社会人として必要な技能の修得とともに日常活動の危機対応にも十分適用できる能力を有しています。保護者も参加してもらいたいですね。

4. 団の対応方法の評価

(1) マニュアルの活用と情報の団内お知らせ

2団では、マニュアルの周知徹底を随時あるいはタイムリーに実施することになっています。講演の中でも「マニュアルを作ったらそれでおしまい」はダメだと説明がありました。これまでも団メールで少しずつお伝えしてきました。訓練の実施後には速やかな報告も行っています。今後も新しい情報を入手したときや、安全フォーラムなどの有益な情報の報告を継続して行っていきます。

(2) 事故対応訓練の実施

事故が起きた時にどのように対応するかが重要で、これまで実施してこなかったことです。危機管理には2つの要素があります。これは講演者に確認したことです。事故対応の初動対応としては、事故と気付くまでの過程と発生後の決まった対応があります。今回の事故対応では、手順を決めて決まった対応を訓練しました。これでは、結果として悪影響を最小限にするためには十分ではないなあと反省しました。具体的に言うとスカウトの様子が、変だなあと気付くまでの時間が短ければ、大事に至るのを防ぐことができます。朝礼などで顔色を見たり、本人に確認したりすることが効果を発揮します。突発的な事故は、「走ってはいけない」とか注意することで未然に事故を防いでいます。

もちろん、事故が発生した後の行動については最悪の場合に重要なことなので、スムーズに行動できることが重要なので訓練を実施していきましょう。実際に訓練に参加した指導者やスカウト、保護者は実感できたことでしょう。私が団の責任者として一番重要性を感じています。すべての指導者に参加してほしいと切望しています。

(3) 危機管理体制

事故対応訓練では、事故対応本部を設置することを行ってきました。想定していなかった事態が発生したときには、2団内に留まらず、地区や大阪連盟の支援、あるいは日本連盟の支援、指示が必要になります。2団が準備した体制表では、明記していませんでした。役割分担も涉外、広報、現地支援なども考慮する事例が示されました。今後、改善すべきことは多いです。これに加えていきます。

事故の記録が重要との指摘がありました。ヒヤリハットまたは事故報告書を作成しますが、これを確実に実施することが重要との認識を深めました。皆さんもよろしくお願いします。地区で共通の様式があれば、地区内で共有することに役立つと考えています。

最後に、危機管理は全員で進めるものであることをお願いします。これまでは、私が推進してきましたが、全員でやりましょう。事故対応訓練に全員が参加しましょう。安全対策マニュアルも全員で継続して作成していきましょう。全員で行うことで事故を起こさない活動ができると思います。

5. 1月15日危機管理セミナーへ谷岡副団委員長が参加します

大阪連盟危機管理委員会が、各団で「危機管理マニュアル」を作成できるようにするためのひな型を年内で完成し、来年のセミナーで紹介します。HPにも掲載されます。

大いに参考にしてレベルアップするとともに2団独自のマニュアルを作っていきます。